



私はそれまでの英語の知識を捨てた。  
手元に残ったのはたった1冊の本と  
文法書だけ。

フランス人留学生とまともな会話ができなかった私は、『英会話・  
ぜったい・音読・入門編』の本に沿って学習することに決めました。

しかし、最初からすぐに『英会話・ぜったい・音読・入門編』を  
使って学習できたわけではありませんでした。今まで自分が習慣に  
していたことをやめるには、相当な決意が必要でした。

グラパンから教えてもらった英語学習法が一番良いと頭ではわか  
かっていても、今まで学習してきた英単語や英語構文の本、そして  
テレビ・ラジオ講座の本が本棚にたくさん並んでいるわけです。

それらの教材が目に入ってくると、グラパンに言われた学習法よ  
りも、それらを学習している方が心地良い気がしてしまいます。

それに、大学受験のため英語教材だけで親に5万円分以上も購  
入してもらっていました。その中には1教材だけで3万円もする  
ものもありました。そのため、親への罪悪感もあって、なかなか教  
材を捨てられなかったのです。

しかし、どの本も教材もグラパンが言ったような英語学習法に  
沿って書かれたものではありません。そして、それらを勉強しても、

英語が話せなかったのは事実でした。

その時、ふとフランス人留学生と無言のまま歩き、桜木町を楽し  
めなかった悔しい思いが再燃してきました。

「もう英語が話せないのは嫌だ。勉強していないわけではないのに、  
どうしてこんなに私は英語が話せないんだろう。おかしい。今後、  
英語が話せない勉強はしたくない。絶対もっと英語を話せるように  
なる」と。

そこで私は『英会話・ぜったい・音読・入門編』と英文法の問題  
集1冊だけを残し、思い切って本棚にあった20冊近い英語の本を  
全て捨ててしまいました。こうして、『英会話・ぜったい・音読・  
入門編』以外の学習をやめたのです。

この思い切った行動の裏には、私の怠け癖がありました。

私は何かをするといつも3日坊主になってしまい、英語学習の  
習慣化ができませんでした。

そのため、全部の英語本を捨てるくらいの決意がなければ、また  
続かなくなってしまうと思ったのです。

そして、こう考えました。

「せっかく買った本だけれど、自分のためになっていなければ、宝  
の持ち腐れだし、もうこれ以上無駄な本は買いたくない。英語が話  
せるようになることで、親やこれらの本に恩返しをしよう」と。

怠け癖のある私には、こう考えることが前に進むための大切な理  
由づけになったのです。

『英会話・ぜったい・音読・入門編』（講談社インターナショナル／國弘正雄・久保野雅史・千田潤一／2001年）のp.32には、「飽き」と、どう闘うか？の項目があります。そこには次のことが書いてあります。

1. 毎日必ず練習する
2. 無理しない
3. 練習の習慣をつくる

3日坊主で終わってしまう私の性格では、この3点に加えて、

- 習慣化するには、1つか2つの英語学習本に絞る
- 今まで成果が出てこなかった（中途半端に実践して終わっていた）英語本を処分する

この2点が精神面を支える上で、実践と同じくらい大事でした。

もしかしたら、多くの英語学習者さんも私と同じかもしれません。1つの教材で勉強しても、長くは続かず次の教材を買ってしまう。この繰り返しになっている人は、正しい英語学習法に出合ったとしても、英語は話せるようになりません。

英語は、正しい英語学習法を知って、それだけに集中して実践する気持ちと習慣がとてとても大切なのです。



ポイント

教材を絞り、集中して学習する気持ちと習慣が大切。

2

[第3章] 英語が口から飛び出すことが可能になった方法  
(実践方法3割・精神的な部分7割)



新しい英語学習の前に、  
思い切って今までの英語本を整理しよう。

『英会話・ぜったい・音読・入門編』と英文法の本以外の本を整理したことによって、私は気持ちがすっきりし、この2冊の学習に集中することができました。その結果、3カ月の間、他の本に浮気せずに学習できたのです。

本を整理する前は、

- いつか読むだろうと思って取っておいた本
- 中途半端に読んだ本
- 中途半端に行なった英語本

これらがそのまま本棚に残っていたり、クローゼットの中に入っていたりして、本棚やクローゼットを見るたびに、罪悪感が生じていました。

具体的には、それらの本を見るたびに「いつかやらないといけない（でもできないから自分ってなんて根性がないんだろう）」と思っていたのです。そういった罪悪感にさいなまれながら英語学習をしたところで、成果は全く上がりませんでした。

そこで、思い切って2冊の本以外を処分したところ、私自身の